

第 15 回
かながわ高齢者福祉研修大会用

ターミナルケアの実現における連携の重要性

施設と在宅ターミナルケアの事例を踏まえて

フリカナ
法人名 シヤカイフクシホウジン ヒマワリフクシカイ
施設名 社会福祉法人 ひまわり福祉会
特別養護老人ホーム 野庭苑

| | | | |
|--------------|-------------|--------|--|
| 発表者名 (職種) | 千明親市 介護職 | 住 所 | 横浜市港南区日野南 5-56-2 |
| 共同発表者 | 伊藤敏 | T E L | 045-892-8881 |
| 共同発表者 | 永田貴子 | F A X | 045-895-0050 |
| 共同発表者 | 葛田岳 | E-mail | nobaen-sol@himawarifukushi.or.jp |
| 共同発表者 | | U R L | http://www.himawarifukushi.or.jp/nobaen/ |

| | |
|-------------------|---|
| 今回の発表施設またはサービスの概要 | 昭和 62 年に開設した従来型の特養施設。「地域や家庭との結びつき・明るい家庭的な雰囲気」を大切にし、利用者が自立した生活を目指せるようなサービスの提供に努めている。 |
|-------------------|---|

《取り込んだ課題》
平成 27 年野庭苑を退所されたご利用者 39 名中、その 64%にあたる 25 名が苑での看取りを希望された。施設・在宅におけるターミナルケアの取組みから得られた「職種間の連携の重要性」について学べたことを発表する。

《具体的な取り組み》
事例 1 施設ターミナルケアの場合
【連携】
①介護士から看護師へ状況報告。栄養士と相談のもと食事を中止し医師指示のもと点滴へ移行する。
②看護師から医師へ状況報告。相談部を介しご家族へ連絡する。
③医務部からご家族へ面談の調整をし、医師との三者による面談を実施する。
④看護師から栄養士へ状況報告し 2 点ゼリーへ変更。
⑤相談部よりご家族へ状況報告する。
⑥夜間呼吸停止時、介護士から相談員・看護師へ報告し相談員からご家族へ連絡を行う。介護士から提携医師へ到着時間の確認を行う。
⑦夜間来苑されたご家族へ介護士から状況報告を行う。
【取組み】
①医務・介護部共同による口腔ケアの強化・実施。
②体位交換の強化と安楽な体位の工夫。
③居室を医務室横へ移動。(緊急時対応の整備)
④居室に思い出の写真や馴染みの物品を配置。
⑤定期的なタクテイルケアの実施。
⑥個別の排泄、水分・食事、吸引記録表の用意。(情報の共有化)
⑦急変時の対応マニュアルの確認と訓練の実施。
⑧ご本人・ご家族への精神的フォローの強化。
⑨ご家族への医師到着時間の報告。
⑩介護士・看護師共同によるエンゼルケアの実施。
⑪ご家族への葬儀場のパンフレットの提供。
⑫職員全員による退所時のお見送りの実施。
事例 2 在宅ターミナルケアの場合
【連携】
①相談部より居宅ケアマネージャーへ情報提供を行い訪問診療の手配の助言と新たなキーパーソンの提案をする。

②居宅ケアマネージャーよりキーパーソンへ連絡を行いターミナル希望の確認をする。
③主治医・キーパーソン・居宅ケアマネージャー・施設看護師による四者面談を実施する。
【取組み】
①相談部から居宅ケアマネージャーへの継続的な情報提供と連携・アプローチ。
②キーパーソンによる国際電話の手配。
《活動の成果と評価》
施設ターミナルケア
各部署が担うケアを他職種と連携したことで、全員でケアするという意識へ繋がり、それがご利用者・ご家族への精神的なフォローとなることで、看取りに対する受容と安心感を提供することが出来た。
在宅ターミナルケア
外部への積極的な連携の結果、相手のニーズを引き出すことに繋がり、施設での在宅ターミナルケアが実現した。
《今後の課題》
①同時期における複数のターミナルケアの利用者への対応・連携の強化。
②マニュアル化されていないショートステイのターミナルケアへの連携の円滑化。
(継続的なアプローチと臨機応変な対応の強化)
《参考資料など》
介護施設におけるターミナルケア
～暮らしの場で看取る意味～ 島海房江著

